

RS (リーディングスキル) 6分野7項目早わかり表 (9/26改訂版)

相馬市教育委員会 学校教育課

分野・項目	略 語	内 容
係り受け解析	デ ッ プ D E P	<p>文の基本構造を正しく把握する能力で、読解力の最も基礎となる能力</p> <ul style="list-style-type: none"> 文の基本構造とは、主語・述語、修飾語・被修飾語など、文を構成する要素の関係を指します。
照 応 解 決	ア ナ A N A	<p>指示代名詞が指すものや、省略された主語や目的語を正しく認識する能力</p> <ul style="list-style-type: none"> 「照応解決」には、指示代名詞が指す内容を把握する「指示照応」と、文の中に書かれていない主語や目的語を補って読む「ゼロ照応」とがあります。「ゼロ照応」の能力は、係り受け解析の能力がもとになります。 文の意味理解につなげるために、親密度の低い言葉にも注意して指導する必要があります。
同義文判定	パ ラ P A R A	<p>与えられた2文が同義かどうかを語彙力や論理力を駆使して正しく判定する能力</p> <ul style="list-style-type: none"> 連用中止法の表現では、どの文が原因と理由で、どの文が並列なのかなどを読み解くことが必要です。 主語が変化した場合、述語としての「対義語」にも注意する必要があります。 読み飛ばしやキーワード読みをすると、使われている単語が同じ場合「同じ文である」と選択してしまう可能性があります。「受動か能動か」などを考えながら読むように指導する必要もあります。 「て・に・を・は」に目を向けて読む経験をさせることも大切です。
推 論 〈基本〉	インフ I N F	<p>既存の知識と新しく得られた知識から、論理的に判断する能力</p> <ul style="list-style-type: none"> RSでは、「学習言語」を扱っているので、国語科の文学的文章(物語、詩、小説など)で「作者の意図」を読み解くような発問は、「推論」としては取り扱いません。 「推論」の基本の学習は、「抽象を具体的に、そのまま書き換える」ことです。 <p>(例1) 〈抽〉 放送局では、…1本のニュース番組に…しています。 〈具〉 NHKでは、…7時のニュースに…しています。</p> <p>(例2) 〈抽〉 銀行には、都市銀行や地方銀行など、いくつかの種類…。 〈具〉 都市銀行：みずほ銀行、三菱UFJ銀行、三井住友銀行 福島県の地方銀行：東邦銀行、福島銀行、大東銀行</p> <p>(例3) 〈抽〉 海や湖の底でできた地層が陸上で見られるのは、長い年月の間に、大きな力が加わって、大地がおし上げられたからです。世界の屋根といわれているヒマラヤ山脈の山頂付近に、かつて海の底でできた地層が、しま模様になってはっきりと見えます。 〈具〉 エベレスト山は、大昔には、海の底だった地層が、長い年月の間に、大きな力が加わって、おし上げられたことでできた。</p>

<p>推 論 〈 発 展 〉</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ 「推論」の発展の学習は、「抽象から具体的に落とし込む際に、より身近な事柄に普段から関心を持たせる」ことです。 (例) 〈抽〉 てこを使っておもりを持ち上げるとき、支点と作用点の間のきよりを短くすると、小さい力でおもりを持ち上げることができます。 〈具〉 (図を使いながら) 長い棒を使って重い石を持ち上げるには、なるべく支点と作用点のきよりを短くしたほうがいい。 〈具〉 (図を使いながら) くぎぬきで、くぎの頭を入れるところと、曲がったところまでのきよりが短いのはこの力を良く働かせるためだ。
<p>イメージ同定</p>	<p>レ ッ プ R E P</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>テキスト情報（文章）と非テキスト情報を正しく結びつけて認識する能力</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書は、テキスト情報と非テキスト情報で構成されています。 ・ R Sにおいて、教科書に載っている「イメージ（非テキスト情報）」とは、「グラフ、表、図形、概念図、地図、年表、数式、テープ図、楽譜」などです。 ・ R Sの視点からは、写真やイラストは解釈が定まらないので取扱いには注意が必要です。 ・ 写真や絵が多かった小学校中学年までの教科書は、高学年になるに従って多様な非テキスト情報が増加します。複数の非テキスト情報を根拠にしながら、本文を読み解くことが小学校高学年以上では求められます。それは子どもたちにとって大変なことです。 ・ 算数科・数学科においては、式（非テキスト情報）と図、表、グラフなど（非テキスト情報）を結びつけて考えさせることもイメージ同定となります。例えば、式をいったん言語化（テキスト情報に変換）し、図や表、グラフなどと対応させている場合、2度イメージ同定を行っていることとなります。もちろん、逆（図や表、グラフなどの非テキスト情報から式をつくること）も同様にイメージ同定となります。
<p>具体例同定</p>	<p>辞書</p>	<p>インストディ I N S T d</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>辞書の定義を用いて、新しい語彙を獲得し、それと合致する具体例を認識・獲得する能力</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己流の読みが染みつく前に、辞書引きの前提となる基本語彙を十分に耕してあげる必要があります。基本語彙の意味をグラウンディングさせることが大切です。
	<p>理数</p>	<p>インストエム I N S T m</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>理数的な定義を理解し、それと合致する具体例を認識・獲得する能力</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定義文の誤読を授業の中で修正し、教科特有の定義文を解像度高く読めるように指導することが大切です。

〈参考資料〉 「R S T出題と評価」(一般社団法人 教育のための科学研究所)
「リーディングスキルテストふりかえりプリント」(一般社団法人 教育のための科学研究所)
新井紀子先生の講演・指導助言内容、目黒朋子先生の講演・指導助言内容